



家畜衛生情報



養蜂 (H28. 3)

- ・トピックス ①西部家畜保健衛生所 紹介 ②蜜蜂の病気について
- ③日本蜜蜂と病気について ④家保への連絡方法

①西部家畜保健衛生所 紹介

こんにちは 西部家畜保健衛生所 防疫担当の長(ちょう)です。みなさんは家畜保健衛生所(以下家保)をご存じでしょうか。家保は、各県ごとに設置され、地域の家畜に対する、衛生指導や病気の診断などを行っています。家保が関わる家畜には、皆さんが飼われている蜜蜂(日本・西洋共に含む)も含まれており、蜜蜂の病気に対しても、診断や防疫処置(伝染病の発生・流行を予防すること)を担っています。

近年、蜜蜂を飼われる方が増加し、蜜源の確保や病気の発生など、様々な問題が起きるようになってきています。また、日本蜜蜂を飼養されている方は特に、趣味として最近飼われ出した方が多いこともあり、「どんなときに病気なのかがわからない」「どんなときに家保に相談したら良いのかわからない」という意見を伺うことがあります。

そこで、西部総合事務所 農林局と協力し、蜜蜂の重要な病気について、家畜衛生情報としてまとめ、みなさんにお送りすることにしました。ご覧になり、飼養の一助となれば幸いです。



鳥取県西部家畜保健衛生所
管轄：米子市、境港市、西伯郡、日野郡全域

②蜜蜂の病気について

家保が関わる病気は、家畜伝染病予防法(以下家伝法)に基づいており、蜜蜂の病気は法定伝染病に1つ、届出伝染病に3つ定められています。これらの病気は、発生した場合、殺処分や、国に届出をする必要があります。次のページから、病気に関する情報、通報の目安を記載しているので、疑わしい症状がありましたら、すぐに家保に連絡をお願いします。

また、家伝法に指定はされていませんが、最近話題となっている、サックブルード病についても紹介しています。サックブルード病に関しては、現在、教科書的な治療法もなく、届出などの報告義務もありませんが、疑わしい場合はご連絡いただければ診断等、対応できるようにしています。

蜜蜂の主な病気

- ・**腐蛆(ふそ病)・・・法定伝染病。**この病気は2種類あり、よくこの病気になると、蜂児が溶ける(腐る)といいますが、ヨーロッパ腐蛆病ではそのような症状が見られず、**アメリカ腐蛆病** 現在日本ではこちらの病気の発生が多いといわれています。

原因:細菌

発症する蜂:有蓋蜂児

症状:有蓋蜂児が死亡。死亡蜂児は粘りがあり糸を引く。黒っぽい色に変色。特徴的な膠(にかわ)臭がする。

ヨーロッパ腐阻病

原因:細菌

発症する蜂:4日～5日齢の無蓋蜂児(アメリカ腐蛆病より早い)

症状:無蓋蜂児。死亡蜂児は水っぽくなる。酸っぱいにおいや魚が腐敗したにおいがする。

通報の目安:上記の症状が見られたとき

発症後の対応:発症群の巣箱を焼却処分。この場合、資材や蜂蜜の補償が行われる。(補償額は評価人により決定)
予防として、抗生剤であるアピテンの投与。

- ・**バロア病・・・届出伝染病。**ダニの寄生によって起こる病気

原因:ダニ(ミツバチヘギイダニ)

発症する蜂:蜂児、成虫両方

症状:蛹の死亡、成虫に発達異常、羽の変形が見られるようになる。秋に重症化しやすい。

通報の目安:巣門近くで飛べずに這い回っている蜂がいる。成虫に矮小、羽が曲がるなどの奇形がある。(寄生が多数に及ぶと、成虫に寄生しているミツバチヘギイダニが確認できることもある)

発症後の対応:法的には特になし。予防として、アピスタンや、アピパールといった殺ダニ剤の投与。

- ・**チョーク病・・・届出伝染病**

原因:カビ

発症する蜂:蜂児、蛹

症状:蛹が白くなりミイラ化し(黒板用のチョークのように見える)、巣門近くに捨てられる

通報の目安:巣門近くに、白く変化した蛹が捨てられているのが確認できた時

発症後の対応:法的には特になし。予防薬もない。湿度が高い時や寒いときに発症すると言われているので、冬期に不用意に巣箱を開けないことや、湿度の管理などに努める。

・ノゼマ病…届出伝染病。蜜蜂に下痢を引き起こす

原因:ノゼマ微胞子虫(原虫の仲間)

発症する蜂:成虫

症状:下痢が見られる。蜂のおなかが膨らんで見えるたり、体がぬれたように見える。

通報の目安: 巣箱の内外が蜜蜂の糞で過剰に汚れている、さらに蜂が巣箱周囲を徘徊したり、巣門付近で死亡しているのを発見した場合

発症後の対応: 法的には特になし。予防薬もない。ノゼマ微胞子虫の胞子は、蜜蜂の糞に排出され、長期間生存するので、巣箱の清掃や交換によって、衛生状態を良好に保つことが重要。

・アカリダニ症…届出伝染病。アカリダニ(目では見えない)が、蜜蜂の成虫の気管に寄生し、衰弱、窒息をもたらす病気。感染しても、多くは無症状ですが、重度に感染した場合など、成虫の大量死をもたらすことがあります。
鳥取県では発生報告はありませんが、ダニ自体はすでに県内に入っている可能性があります(近県では広島、岡山で発生)。

原因:アカリダニ

発症する蜂:成虫、今のところ、日本蜜蜂での報告が多く、西洋蜜蜂での発症報告はない。

症状:翅がK字状になる(Kウイング:後翅がおりたためない状態)。成虫の徘徊、死亡

通報の目安:Kウイング状の翅を持つ蜂の出現。巣箱の周りで徘徊、死亡する蜂の出現。

発症後の対応: 法的には特になし。現在広く認められている治療法はない。



昨年所内で解剖した日本蜜蜂の気管
(この気管は正常で寄生はなし)

アカリダニの寄生がある場合、黒く変色する。家保では解剖後、実体顕微鏡でダニの寄生を確認します

・サックブルード病

原因:サックブルードウイルス

発症する蜂:日本蜜蜂の蜂児。現在、西洋蜜蜂の重症化の例は知られていない。

症状:蜂児の頭部が透明、水が溜まった、サック(袋)状になる。異常な量の子捨てがおきる。

通報の目安:100匹単位での「子捨て」現象がある。子捨てされた蜂児の中に、サック状の個体が存在すること。

発症後の対応: 法的には特になし。現在広く認められている治療法はない。

※サックブルード病に関しては、健全な成虫、蜂児でもウイルスが検出されるという報告もあり、**臨床症状の有無が診断には重要**です。日本蜜蜂は、習性として「子捨て」をする蜂であり、症状が「子捨て」だけの場合は診断が難しいです。必ず、蜂児がサック状になっているかどうかを確認後、ご連絡ください。

③日本蜜蜂と病気について

西洋蜜蜂に比べて、日本蜜蜂は野生を残した部分が多く、よくわかっていないこともたくさんあります。よく、「日本蜜蜂は西洋蜜蜂で出る病気にはかからない」という話を耳にしますが、最近では日本蜜蜂での腐蛆病の報告も挙がっており、同じ蜜蜂ですので、西洋蜜蜂と同様、病気になることもあると思っています。2、3ページの病気について、疑わしい場合はご連絡ください。

※腐蛆病検査について

蜜蜂の病気の中では、家伝法により、「腐蛆病」のみが年に一度、家保による検査が義務づけられています。西洋蜜蜂の飼養者の方には、8月から9月にかけて、腐蛆病検査を行っていますが、日本蜜蜂の飼養者の方に対しては、

- ①巣枠式の巣箱でないことが多く、蜂児の確認がしにくい。
- ②検査による逃亡の危険がある。

などの理由から積極的には検査を行っていません。ですが、最近飼われ始めた方など、心配に思われる方は検査しますのでご連絡ください(検査はその蜂場にある群の20%を抽出。一群につき60円の検査料がかかります)。

④家保への連絡方法

病気が疑われた場合は、まず、家保にお電話ください。お電話を頂いた場合、発生の状況、蜂場や巣箱の確認も行いたいので、基本的には家保の職員が蜂場に行き、成虫や蜂児の検体を採取します。

連絡先 西部家畜保健衛生所 0859-62-0140

また、平日対応となり、できるだけ午前中にお電話くださると助かります。蜂場に行く場合、立ち会いをお願いしておりますが、無理な場合などもお電話でご相談ください。



鳥取県西部家畜保健衛生所

住所：鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷1540-17

電話番号：0859-62-0140

ファクシミリ：0859-62-0143

文責 長 千恵